

**製品名: SAE1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17573**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	38kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SAE1
別名	SAE1; AOS1; SUA1; UBLE1A; SUMO-activating enzyme subunit 1; Ubiquitin-like 1-activating enzyme E1A
遺伝子 ID	10055.0
SwissProt ID	Q9UBE0
免疫原	抗血清はヒト AOS1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

**背景**

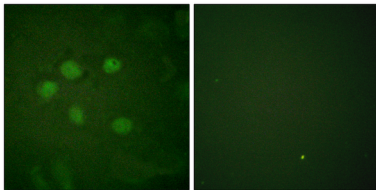
SUMO1 活性化酵素サブユニット 1 (SAE1) Homo sapiens 小さなタンパク質 SUMO (SUMO1 を参照; MIM 601912) の付加によ

るタンパク質の翻訳後修飾、すなわち SUMO 化は、タンパク質の構造と細胞内局在を制御します。SAE1 と UBA2 (MIM 613295) は、タンパク質の SUMO 化のための SUMO 活性化酵素として機能するヘテロ二量体を形成します (Okuma et al., 1999 [PubMed 9920803])。[OMIM 提供、2010 年 3 月];機能: 二量体酵素は、SUMO1、SUMO2、SUMO3、おそらく SUMO4 の E1 リガーゼとして機能します。SUMO タンパク質の ATP 依存性活性化と、SAE2 上の保存されたシステイン残基とのチオエステルの形成を媒介します。経路: タンパク質修飾;タンパク質の SUMO 化。PTM:DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。類似性:ユビキチン活性化 E1 ファミリーに属する。サブユニット:SAE1 と SAE2 のヘテロ二量体。複合体は SAE2 を介して SUMO タンパク質に結合する。組織特異性:発現レベルは S 期に上昇し、G2 期に低下する (タンパク質レベル)。

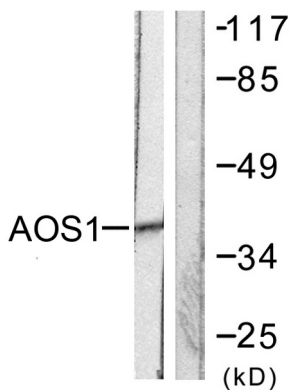
## 研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解;

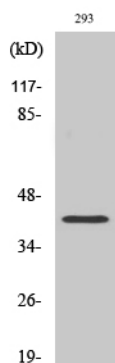
## 画像データ



AOS1 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



AOS1 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



SAE1 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。